

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-031405-01-02

| | | | | | | | |
|-----|-----------|------|----|-----|------------------|-----|----|
| 事業名 | 疎開関係者交流事業 | 事業番号 | 02 | 課係名 | 平和・男女共同参画課 平和推進班 | 係番号 | 01 |
|-----|-----------|------|----|-----|------------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 疎開関係者及び一般県民</p> <p>(2) 現状 本年は、戦後60年の節目にあたるが、戦時中、疎開先でお世話になった方々に対し、県として公式に感謝を述べていない。</p> <p>(3) 方法 集団学童疎開先(宮崎県、熊本県、大分県)のお世話になった方々へ感謝の意を表するため県へ招待する。平成16年度に実施した疎開関係者実態調査を踏まえた上で、疎開関係者交流事業を行う。</p> <p>(4) 目標 疎開受入先関係者を沖縄県にお招きし、感謝の意を表すとともに、疎開中に亡くなられた方々を追悼し、併せて疎開関係者間の交流と疎開体験の継承を図る。</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 集団学童疎開関係者は県全域に存在しており、各団体は個別に疎開地と交流をしている。戦後60年を迎えて、全県的な事業とするため実施する。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 太平洋戦争・沖縄戦終結60周年事業として県が取り組み、県の平和行政を効果的に推進する必要がある。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位:千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>0</td> <td>21,595</td> <td>26,202</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.00</td> <td>1.00</td> <td>1.70</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名: 平和創造・発信事業</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 0 | 21,595 | 26,202 | 0 | 人工数 | 0.00 | 1.00 | 1.70 | 0.00 |
|--|--|--------|--------|-------|-------|-------|-------|---|--------|--------|---|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 0 | 21,595 | 26,202 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.00 | 1.00 | 1.70 | 0.00 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 戦後60年を迎えるこの機会に、戦後の沖縄の復興の力となった集団学童疎開者の関係者を招聘し、お世話になった方々に感謝するとともに、疎開中に亡くなられた方々を追悼し、疎開関係者間の交流と疎開体験の継承を図ることにより、県民一人ひとりが戦中、戦後の歴史を顧み、平和で安らぎと活力のある沖縄県づくりに邁進するための契機とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期: 平成16年度, 終期: 平成17年度</p> <p>4. 自治上の区分: 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 疎開に関する実態調査 記念式典等の実施</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績 8-(1)どこまでやったのか(手段・活動指標) 平成16年度に疎開関係者実態調査を実施し、関係者名簿の作成をはじめ、疎開の実体を把握する貴重な資料の収集を行った。 平成17年度は疎開関係者交流事業記念式典及び交流会を実施した。また、県民向けに疎開フォーラムを行った。</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略 9-(1)どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 平成17年度で事業終了</p> |
| <p>(2) その結果、何が(成果指標) 県内外への平和発信</p> | <p>8-(2)どの水準まで向上したか(成果指標) 戦時中、疎開先でお世話になった方々に感謝の辞を伝えた。その他、疎開関係者間が60年を経て再開したことにより、新たな交流が始まり、親交を深めることができた。 また、県民に対しては、疎開フォーラム等により沖縄戦の別の一面を伝えることができた。</p> | <p>9-(2)どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 該当なし</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 文化環境部 平和・男女共同参画課 平和推進班 | | | | |
| 評価責任者 | 米蔵博美 | | 担当者 平和推進班 | | |
| 課番号 | 031405 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2500 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-031405-01-02 | | | | |
| 事務事業名 | 疎開関係者交流事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 021010011 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 平和創造・発信事業 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|------------------------------|-------|----------|--------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 疎開関係者実態調査実相把握(判明者数) | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 事業参加候補者名簿作成(候補者数) | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 疎開関係者交流事業の開催(参加者) | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 疎開受入者への感謝、疎開関係者間の交流、疎開体験の継承等 | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標:H20年度 |
| 活動指標A | 人 | 0.00 | 5,962.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標A' | 人 | 0.00 | 1,091.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 活動指標B | 人 | 0.00 | 0.00 | 450.00 | | 0.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 投入資源 (単位:千円) | 予決算額C | 0 | 21,595 | 26,202 | 0 | |
| | 人工数D | 0.00 | 1.00 | 1.70 | 0.00 | |
| | 人件費E | 0 | 6,440 | 10,948 | 0 | |
| | 合計C+E=F | 0 | 28,035 | 37,150 | 0 | |

| | |
|------------|--|
| 1. 県民意識の把握 | |
| | (1) 県民満足度の度合い 判定 B |
| | (判定内容) B: 概ね満足している。 |
| 判定根拠 | 本調査は、包括的な悉皆調査ではなかったにしろ、数多くの疎開者及び疎開関係者が判明し、またアンケート調査により当時の疎開地での疎開者の生活をうかがい知ることが出来る貴重な資料となった。また、疎開関係者交流事業は本調査の候補者名簿を踏まえて実施した。平成17年度に開催した疎開関係者交流事業記念式典では、多くの疎開者・疎開受け入れ者が60年ぶりに再会し、新たな交流が始まった。 |
| | (2) 県民ニーズの動向 判定 C |
| | (判定内容) C: 減少傾向 |
| 判定根拠 | 戦後60年が過ぎ、疎開を体験した世代も高齢となっているため、今後このような調査のニーズは減少するものと思われる。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|---------------------|-------------------|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 他県水準より高い。 | | |
| 判定根拠 | 他県において比較する類似例はない。 | |

| | | |
|---|---|------|
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 B |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、官の実施が妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 本事業は疎開受入者への感謝と疎開関係者間の交流、疎開中の犠牲者への追悼、疎開体験の継承等を目的としており、公的機関で実施したのは適当であった。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県の実施が妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 疎開関係者間の交流はすでに市町村単位で実施されており、本事業は一部地域ではなく全県的に実施するものであるため県での実施が妥当である。なお、実態調査については疎開者名簿や関係資料の提出など各市町村の協力を頂いた。 | |

| | | |
|---------------------------|------------|------|
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 E |
| (判定内容) E. 民間委託済み（一部委託含む）。 | | |
| 判定根拠 | 実態調査を委託した。 | |

| | | |
|-------------------------------|------------------------------------|------|
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定根拠 | 平和行政の一環として実施するものであり、県庁内で類似するものはない。 | |

| | | |
|-----------------------------------|---|------|
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定根拠 | 疎開関係者交流事業は戦後60周年事業として疎開に焦点をあてるため、対象者は疎開者及び疎開関係者となる。 | |

| | | |
|--------------------|---|------|
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 A |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) A. 直接、結びつく。 | | |
| 判定根拠 | 実態調査に基づき疎開関係者交流事業の事業参加候補者名簿を作成するため、本調査は成果指標の達成に直接結びつくものである。 記念式典では、疎開受け入れ先の方々へ感謝の意を伝えることができただけでなく、新たな交流のスタートにもなった。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。

判定根拠
 実態調査（費用）は平成16年度限りであり、その成果となる事業参加候補者名簿及び調査報告書（成果）は今後においても貴重な資料となる。
 平成17年度に記念式典、交流会及び疎開フォーラム等を実施した。

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 A 1
 (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。

判定根拠
 疎開関係者交流事業を実施するため、疎開関係者実態調査（費用）は必要なものであった。
 記念式典、交流会、疎開フォーラムに必要な経費であった。

9. 県の負担割合 判定 A

(判定内容) A. 妥当である。

判定根拠
 戦後60周年事業として、県民の平和を希求する心を県内外に発信する。

10. O A化の可能性 判定 A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A化が困難である。

判定根拠
 本事業は疎開受入者への感謝と疎開関係者間の交流、疎開中の犠牲者への追悼、疎開体験の継承を目的とするものであり、その性質上O A化は困難である。

11. 判定結果

| | | | |
|-----|----------------|---------|--------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | C |
| 必要性 | 2. サービス水準の他県比較 | | C |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | B |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | | E |
| | 5. 事務事業の選択 | | A |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | | A |
| | 7. 貢献度 | | A |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 1 |
| | | (2) 対結果 | A 1 |
| 効率性 | 9. 県の負担割合 | | A |
| | 10. O A化の可能性 | | A |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 7 | 3 | 2 | | 1 |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | | |
|------|---|--------|
| 評価区分 | D | 具体的方向性 |
| | | 1 |

(評価区分) : D. 廃止
 (具体的方向性) : 1. 他の事務事業により代替する（当該事務事業は廃止するが、新規事業を検討する）。

判定根拠
 平成16年度疎開関係者実態調査の調査報告及び事業参加候補者名簿に基づき、疎開関係者交流事業（記念式典、交流会、市町村プログラム、疎開フォーラム及び資料館疎開展）を実施した。平成17年度単年度事業で、事業は終了している。

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-031405-01-03

| | | | | | | | |
|-----|----------|------|----|-----|------------------|-----|----|
| 事業名 | 平和の礎管理事業 | 事業番号 | 03 | 課係名 | 平和・男女共同参画課 平和推進班 | 係番号 | 01 |
|-----|----------|------|----|-----|------------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 沖縄戦で亡くなったすべての方々の氏名の刻銘</p> <p>(2) 現状 適切な維持管理のもと、平和学習の場、戦没者の追悼の場として国内外から多くの方々を訪れている。</p> <p>(3) 方法 平和の礎の維持管理とともに、新たに判明した戦没者について計画的に追加刻銘を行う。</p> <p>(4) 目標 沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外に述べ伝え、世界の恒久平和の確立に寄与することを願い、沖縄を平和の発信地として広く内外にアピールする。</p> <p>2. 事業の必要性 平和の礎は、「戦没者の追悼と平和祈念」「戦争体験の教訓の継承」「安らぎと学びの場」の三つの基本理念があり、そのことから、維持管理、追加刻銘の実施、データの整備が必要である。</p> <p>3. 実施年度・始期：平成7年度，終期：</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 行政 (2) 単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 戦没者の個人情報の管理の問題、刻銘対象者が全国のみならず、外国にもわたっており、公共性のある事業であるため。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 平和の礎は、沖縄戦で亡くなったすべての人々を対象とし、平和の礎を訪れる方々も県の内外にわたっており、平和を求める沖縄の心を世界に発信するものであるため。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位：千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>32,016</td> <td>36,658</td> <td>38,631</td> <td>30,833</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.50</td> <td>0.70</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：平和の礎事業</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 32,016 | 36,658 | 38,631 | 30,833 | 人工数 | 0.50 | 0.70 | 1.00 | 1.00 |
|---|--|--------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 32,016 | 36,658 | 38,631 | 30,833 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.50 | 0.70 | 1.00 | 1.00 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和の礎の清掃管理 ・新たに判明した戦没者の追加刻銘 <p>(2) その結果、何が(成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和を願う沖縄の心の世界への発信 ・世界平和創造への貢献 | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) 適切な維持管理等行うとともに、毎年追加刻銘を実施している。</p> <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) ・平和学習の場として、戦没者追悼の場として、多くの方々を訪れている。 ・新たに判明した戦没者の追加刻銘により、刻銘者数は23万人余りになっている。</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 平成18年度以降は、施設の維持管理を指定管理者に委託する。 新たに判明した戦没者の追加刻銘及び、データの整理については今後も県が実施する。</p> <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 施設の維持管理を指定管理者に移行することで、より適切な管理及び参観者のニーズに対応することができる。 また、データの整理を通して、沖縄戦の戦没者のより詳細な状況を得ることができ、平和の尊さについて認識が深まる。</p> |
|---|---|--|

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|------------------------|-----|-----------|-------|----------|
| 部課係名 | 文化環境部 平和・男女共同参画課 平和推進班 | | | | |
| 評価責任者 | 米蔵博美 | | 担当者 平和推進班 | | |
| 課番号 | 031405 | 係番号 | 01 | 電話番号 | 866-2500 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-031405-01-03 | | | | |
| 事務事業名 | 平和の礎管理事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 021010003 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 平和の礎事業 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------------------|-------|--------|------|-------------|--|--|--|
| 分野別計画 施策体系 コード | 主コード | 060103 | 計画名 | 国際交流・協力推進計画 | | | |
| | | | 政策目標 | 国際交流・協力の推進 | | | |
| | | | 施策 | 国際交流・協力の推進 | | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | | | |
| | | | | 政策目標 | | | |
| | | | | 施策 | | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | | | |
| | | | | 政策目標 | | | |
| | | | | 施策 | | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | | | |
| | | | | 政策目標 | | | |
| | | | | 施策 | | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | | | |
| | | | | 政策目標 | | | |
| | | | | 施策 | | | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | |
|------------------|----------------------------|------------|------------|------------|--------|------------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 刻銘者総数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 平和を願う沖縄の心を世界へ発信する | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 年度別刻銘者数 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 平和の礎の清掃管理及び新たに判明した戦没者の追加刻銘 | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | | 238,429.00 | 239,092.00 | 239,801.00 | | 250,000.00 |
| 成果指標A' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 活動指標B | | 164.00 | 672.00 | 720.00 | | 500.00 |
| 成果指標B' | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | 32,016 | 36,658 | 38,631 | 30,833 | |
| | 人工数D | 0.50 | 0.70 | 1.00 | 1.00 | |
| | 人件費E | 3,315 | 4,508 | 6,440 | 6,420 | |
| | 合計C+E=F | 35,331 | 41,166 | 45,071 | 37,253 | |

| | |
|------------|---|
| 1. 県民意識の把握 | |
| | (1) 県民満足度の度合い 判定 A |
| | (判定内容) A: 満足している。 |
| 判定 根拠 | 施設に対する県内外及び国外からの認知度が高く、平和のシンボルとして定着している。 |
| | (2) 県民ニーズの動向 判定 A |
| | (判定内容) A: 増加傾向 |
| 判定 根拠 | 戦没者の刻銘に対する県民だけではなく県外、外国からの関心も高く、建立後5,924名の追加刻銘がある。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|---|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 他県水準より高い。 | | |
| 判定 根拠 | 同様な施設は全国にない。沖縄県は悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく継承していくことを責務とし、平和を願う沖縄の心を世界へ発信するために、平和行政を推進している。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 B |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、官の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 刻銘対象者が全国、外国に及んでおり、公共性のある事業である。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) B. 法令での定めはないが、事務事業の性質上、県の実施が妥当である。 | | |
| 判定 根拠 | 沖縄戦等で亡くなったすべての人々が刻銘対象者である。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 E |
| (判定内容) E. 民間委託済み（一部委託含む）。 | | |
| 判定 根拠 | 平成17年度までは、施設の清掃管理を委託していた。 平成18年度以降の清掃、維持管理については、指定管理者制度に移行。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 対象や目標等に類似する事務事業がある。 | | |
| 判定 根拠 | 沖縄戦の資料展示を行っている隣接の平和祈念資料館の事業がある。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定 根拠 | 世界の恒久平和を願う沖縄の心を広く内外に発信するため、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦等で亡くなったすべての人々を刻銘対象としている。普遍的な理念に基づく刻銘対象者であり、対象として妥当である。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 B |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) B. 大きな影響を与える。 | | |
| 判定 根拠 | 訪問者が平和の尊さを再確認し世界の恒久平和を祈念する場として平和の礎の維持管理を適切に実施し、新たな戦没者の追加刻銘を継続することは、施設の認知度を高め、県民の恒久平和への願いを発信することにつながるものである。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|---|--------|
| 8. 対費用効果 | | 判定 A 1 |
| (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで成果は上昇。 | | |
| 判定根拠 | 平和の礎は平成7年6月に除幕、9年を経た現在は毎年度の追加刻銘及び施設の維持管理が事業の主な内容であるが、施設の認知度は着実に増しており、平和を願う県民の思いを内外に発信する目的は果たしている。 | |
| (2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると (判定内容) A 1. 費用は低下又は横ばいで結果は上昇。 | | 判定 A 1 |
| 判定根拠 | 平和の礎は県内外の関心度の高さを維持しており、特に追加刻銘については世代を問わず刻銘の問い合わせがあり、刻銘を通して、悲惨な戦争と平和の尊さを認識する機会となっている。 | |

| | | |
|------------------|--|------|
| 9. 県の負担割合 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 沖縄戦を体験した県民の平和を希求する心を内外に発信する施設であることから、県は県単独事業として実施している。 | |

| | | |
|-------------------------------|--------------------|------|
| 10. O A化の可能性 | | 判定 D |
| (判定内容) D. O A化済（一部O A化含む）である。 | | |
| 判定根拠 | 刻銘者の検索システムを導入している。 | |

| | | | |
|--------------|-------------|----------|-----|
| 11. 判定結果 | | | |
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | A |
| | | (2) ニーズ | A |
| | 3. 役割分担 | (1) 官民 | B |
| | | (2) 県市町村 | B |
| | 4. 民間委託の可能性 | E | |
| 5. 事務事業の選択 | C | | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | A | |
| | 7. 貢献度 | B | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 1 |
| | | (2) 対結果 | A 1 |
| | 9. 県の負担割合 | A | |
| 10. O A化の可能性 | D | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 6 | 3 | 2 | 1 | 1 |

| | | |
|--|----------------------------------|-------------------|
| 12. 所管課の総合評価 | | 総合評価 |
| | | 評価区分 B 具体的方向性 1 |
| (評価区分) : B. 現状維持 (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。 | | |
| 判定根拠 | 平成18年度より施設の清掃・管理について、指定管理者制度を導入。 | |

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-031405-02-05

| | | | | | | | |
|-----|-----------------------|------|----|-----|--------------------|-----|----|
| 事業名 | 沖縄県女性海外セミナー「女性の翼」補助事業 | 事業番号 | 05 | 課係名 | 平和・男女共同参画課 男女共同参画班 | 係番号 | 02 |
|-----|-----------------------|------|----|-----|--------------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容 (1) 対象 一般県民（女性）</p> <p>(2) 現状 沖縄県の女性を海外に派遣し、社会活動、教育、労働、福祉等の視察研修、制度の調査等を通じて国際的視野を広め、国際交流を促進するとともに女性の地位向上、社会参加の促進を図り県政に貢献する女性リーダーを育成する。</p> <p>(3) 方法 派遣研修事業の助成（実施主体：おきなわ女性財団）</p> <p>(4) 目標 女性の地位向上、社会参加の促進</p> | <p>5. 事業の種類 (1) 行政 (2) 単独</p> <p>6. 役割分担 (1) 何故、「官」が行うのか 男女共同参画社会基本法で国及び地方公共団体の責務として、機運づくりのための施策が規定されているため。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 基本法で県の責務として規定されているため</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移（単位：千円、人）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>1,620</td> <td>1,296</td> <td>900</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.30</td> <td>0.15</td> <td>0.20</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：男女共同参画行政推進費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 1,620 | 1,296 | 900 | 0 | 人工数 | 0.30 | 0.15 | 0.20 | 0.00 |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|---|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 1,620 | 1,296 | 900 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.30 | 0.15 | 0.20 | 0.00 | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 事業の必要性 意欲と知識を兼ね備えた女性のリーダーの育成に効果的である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3. 実施年度・始期：昭和59年度，終期：平成17年度</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|---|
| <p>(1) 何を（手段・活動指標） 海外の視察研修</p> | <p>8. 過去3年間（H17まで）の実績 8 - (1) どこまでやったのか（手段・活動指標） 事業実施から22回目を数え、278名を研修生として派遣した。</p> | <p>9. 今後3年間（H20まで）の戦略 9 - (1) どこまでやる予定なのか（手段・活動指標） 新沖縄県行政改革システム大綱に基づき、当該補助事業は平成17年度で終了する。</p> |
| <p>(2) その結果、何が（成果指標） 女性リーダーの育成</p> | <p>8 - (2) どの水準まで向上したか（成果指標） 諸外国の事情に通じ、かつ高い見聞と知識を備えた女性リーダーを数多く育成することができた。研修生は派遣後、県議会、市町村議会の議員、県内各種審議会の委員、地域や職場、女性団体等のリーダーとして活躍している。また当該事業で派遣された研修生により結成された沖縄県女性の翼の会は、独自で女性リーダー育成のための研修を行う等、副次的成果も現れている。</p> | <p>9 - (2) どの水準まで向上する見込みなのか（成果指標） 平成18年度からは、派遣先、派遣期間の見直し、旅費を個人負担とする等の検討を行い、（財）おきなわ女性財団の自主事業として実施し、引き続き県内の女性リーダー育成に務めていく。政治、経済、行政、学術等の分野で指導的に立場に立つ女性が増え、女性がどれだけ社会における重要な意志決定に参画できているかを示す指数GEM（ジェンダーエンパワーメント指数）の向上に貢献する。</p> |

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------------|-----|------------|-------|----------|
| 部課係名 | 文化環境部 平和・男女共同参画課 男女共同参画班 | | | | |
| 評価責任者 | 米蔵博美 | | 担当者男女共同参画班 | | |
| 課番号 | 031405 | 係番号 | 02 | 電話番号 | 866-2500 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-----------------------|------|---|--|--|
| 事務事業コード | 2006-031405-02-05 | | | | |
| 事務事業名 | 沖縄県女性海外セミナー「女性の翼」補助事業 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 021011001 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 男女共同参画行政推進費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(2) | | | | | |
| 歳出事業コード(3) | | 事業区分 | | | |
| 歳出事業名(3) | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|-------|--------|------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | | |
| | | | 政策目標 | | |
| | | | 施策 | | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | | 計画名 | |
| | | | | 政策目標 | |
| | | | | 施策 | |

事務事業の区分 1. 内部事務事業以外の事務事業

| | | | | | | | |
|------------------|---------|----------------------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | | 高い見聞と知識を備えた女性リーダーの育成 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | | 派遣者数 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | | | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | | | | | | | |
| <指標の推移> | | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標：H20年度 |
| 活動指標A | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標A' | | | 10.00 | 10.00 | 10.00 | 0.00 | 0.00 |
| 活動指標B | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 成果指標B' | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 投入資源 (単位：千円) | 予決算額C | | 1,620 | 1,296 | 900 | 0 | 0 |
| | 人工数D | | 0.30 | 0.15 | 0.20 | 0.00 | 0 |
| | 人件費E | | 1,989 | 966 | 1,288 | 0 | 0 |
| | 合計C+E=F | | 3,609 | 2,262 | 2,188 | 0 | 0 |

| | |
|---|---|
| 1. 県民意識の把握 | |
| (1) 県民満足度の度合い 判定 B | |
| (判定内容) B: 概ね満足している。 | |
| 判定根拠 | これまで派遣された研修生は、研修で得た知識や経験、研修生同士のネットワークを生かして、県議会、市町村議会の議員、県内各種審議会の委員、地域や職場、女性団体等のリーダーとして活躍している。 |
| (2) 県民ニーズの動向 判定 A | |
| (判定内容) A: 増加傾向 | |
| 判定根拠 | 県、市町村、民間企業等における重要な役職への女性の登用はまだ十分に進んでいるとは言えない状況であり、社会のあらゆる分野における重要な意志決定への女性の参加を促進するためには女性リーダーの育成が必要不可欠である。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|--|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定 根拠 | 他県に置いても同様の事業を実施している。 | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 C |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) C. 現在、官が実施しているが、民営化が可能である。 | | |
| 判定 根拠 | 沖縄県女性海外セミナー「女性の翼」事業は、沖縄県における男女共同参画社会の実現に貢献する女性リーダーを育成することを目的として（財）おきなわ女性財団が実施している事業であるため、県は研修費用の3分の1程度を補助している。 しかし、補助額は年々減少してきており、全額自己負担による研修の実施も不可能ではないと考えられる。 | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) C. 現在、県が実施しているが、市町村への権限移譲が可能である。 | | |
| 判定 根拠 | 沖縄県女性海外セミナー「女性の翼」事業については、宜野湾市、浦添市等の市町村が当該市町村の参加者に対してのみ補助を行っている。 県の補助がなくなった場合、そうした補助金を十分に活用する方法もある。 | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 現在、県が直接実施しているが、民間委託（一部委託含む）が可能である。 | | |
| 判定 根拠 | 当該事業の実施主体である（財）おきなわ女性財団の自助努力により民間企業等からの寄付を募ることも不可能ではない。 | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定 根拠 | 児童や青少年を対象とした同様の研修はあるが、女性リーダー育成を目的とし、成人女性を対象とした事業は当該事業のみである。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 対象が限定的で、目標達成に向けた効果が薄くなっている。 | | |
| 判定 根拠 | 当該補助事業は、研修生の旅費の個人負担を軽減し、より多くの県民に研修の機会を提供する目的で行っているが、予算が年々減少してきていることから、目的を達成するための効果は薄くなっている。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 C |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) C. ある程度の影響を与える。 | | |
| 判定 根拠 | 女性リーダー育成を目的とした研修であり、海外の各種専門機関を訪問するため調整にかかる経費がかかり旅費が割高となる傾向がある。 県の補助は、そうした負担の軽減にある程度役立っていると言える。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

8. 対費用効果

(1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると 判定 | A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 研修生は派遣後、県議会、市町村議会の議員、県内各種審議会の委員、地域や職場、女性団体等のリーダーとして活躍している。 |
|----------|--|

(2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると 判定 | A 2
 (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 研修生は派遣後、県議会、市町村議会の議員、県内各種審議会の委員、地域や職場、女性団体等のリーダーとして活躍している。 |
|----------|--|

9. 県の負担割合 判定 | -

(判定内容) :-

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 旅費の個人負担を軽減し、多くの県民の研修の機会を与えるという目的からすると過小であるが、全額自己負担としても事業の実施が不可能とは言えない。 |
|----------|--|

10. O A 化の可能性 判定 | A

(判定内容) A. 事務事業の性質上、O A 化が困難である。

| | |
|----------|-----------------------------|
| 判定 根拠 | 補助金の交付という事業の性質上 O A 化に適さない。 |
|----------|-----------------------------|

11. 判定結果

| | | | |
|---------------|----------------|---------|--------|
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B |
| | | (2) ニーズ | A |
| | 2. サービス水準の他県比較 | B | |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 |
| | (2) 県市町村 | | C |
| 4. 民間委託の可能性 | C | | |
| | 5. 事務事業の選択 | A | |
| 有効性 | 6. 対象の妥当性 | B | |
| | 7. 貢献度 | C | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 2 |
| | | (2) 対結果 | A 2 |
| | 9. 県の負担割合 | - | |
| 10. O A 化の可能性 | A | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 5 | 3 | 4 | | |

12. 所管課の総合評価

| 総合評価 | |
|--------|---|
| 評価区分 | D |
| 具体的方向性 | 2 |

(評価区分) : D. 廃止
 (具体的方向性) : 2. 民間、市町村等に担ってもらうこと等により県の事業は廃止する。

| | |
|----------|--|
| 判定 根拠 | 実施主体である（財）おきなわ女性財団と調整した結果、派遣先、派遣期間の見直し、旅費を全額個人負担とする等、県の補助に頼らない形態での事業実施を検討し、平成18年度以降も引き続き（財）おきなわ女性財団の自主事業として実施。 |
|----------|--|

様式2 事務事業中期戦略シート

事務事業コード
2006-031405-02-07

| | | | | | | | |
|-----|-----------------------------------|------|----|-----|--------------------|-----|----|
| 事業名 | 沖縄県女性総合センターの管理運営に関する監督・監査及び施設使用許可 | 事業番号 | 07 | 課係名 | 平和・男女共同参画課 男女共同参画班 | 係番号 | 02 |
|-----|-----------------------------------|------|----|-----|--------------------|-----|----|

| <p>1. 事業内容</p> <p>(1) 対象 (財)おきなわ女性財団(センターの管理運営に関する監督・監査)一般県民(施設使用許可)</p> <p>(2) 現状 沖縄県女性総合センターにの管理運営については、(財)おきなわ女性財団に委託しており、県は監督・監査を行っている。施設使用に係る申請書の審査及び使用許可を設置者である県が行っている。</p> <p>(3) 方法 センターの管理運営については、予算要求や実績報告等の際などに随時、監督・監査を行っている。施設の使用許可については、管理受託者である女性財団が申請書を受け付けて平和・男女共同参画課に回付し、男女共同参画課長が審査及び使用許可決定を行っている。</p> <p>(4) 目標 沖縄県の男女共同参画推進の拠点である女性総合センターの機能がより充実し、多くの県民に利用されること。</p> <p>2. 事業の必要性 女性の社会活動拠点及び男女共同参画の活動拠点である沖縄県女性総合センター「ている」を利用者である一般県民に施設提供するため。</p> <p>3. 実施年度・始期：平成8年度，終期：平成17年度</p> <p>4. 自治上の区分： 自治事務</p> | <p>5. 事業の種類 (1)行政 (2)単独</p> <p>6. 役割分担</p> <p>(1) 何故、「官」が行うのか 各種事業実施を含めた施設の管理運営については、現在(財)おきなわ女性財団に委託しており、指定管理者制度導入後は、指定管理者に権限の多くが移譲されることとなるが(施設の使用許可権限)、その監督・監査等については施設の設置者である県が引き続き行う必要がある。</p> <p>(2) 何故、県が行うのか 県が設置した施設であるため。</p> <p>7. 最近4年間の事業費等の推移(単位：千円、人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H15年度</th> <th>H16年度</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予・決算額</td> <td>109,719</td> <td>108,895</td> <td>113,032</td> <td>63,460</td> </tr> <tr> <td>人工数</td> <td>0.76</td> <td>0.65</td> <td>0.65</td> <td>0.40</td> </tr> </tbody> </table> <p>対応する予算の事業名：男女共同参画行政推進費、女性総合センター管理運営費</p> | | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 予・決算額 | 109,719 | 108,895 | 113,032 | 63,460 | 人工数 | 0.76 | 0.65 | 0.65 | 0.40 |
|---|---|---------|---------|--------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|--------|-----|------|------|------|------|
| | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | | | | | | | | | | | | |
| 予・決算額 | 109,719 | 108,895 | 113,032 | 63,460 | | | | | | | | | | | | |
| 人工数 | 0.76 | 0.65 | 0.65 | 0.40 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| <p>(1) 何を(手段・活動指標) 施設管理及び、センターにおける各種事業の実施等、(財)おきなわ女性財団に委託している女性総合センターの管理運営について、適切な監督・監査を行う。</p> <p>(2) その結果、何が(成果指標) 男女共同参画推進のための拠点としての女性総合センター機能の充実</p> | <p>8. 過去3年間(H17まで)の実績</p> <p>8-(1) どこまでやったのか(手段・活動指標) 沖縄県女性総合センター施設利用者数及び各種事業参加者数合計 平成14年度 121,955人 平成15年度 133,034人 平成16年度 123,177人 平成17年度 126,615人</p> <p>8-(2) どの水準まで向上したか(成果指標) 現在、沖縄県女性総合センターは年間約12万人を越える利用者があり(平成16年度実績126,615人)、女性のため相談事業、男女共同参画推進のための情報提供事業啓発学習事業、広報事業等の男女共同参画社会実現に向けた取組が充実している。</p> | <p>9. 今後3年間(H20まで)の戦略</p> <p>9-(1) どこまでやる予定なのか(手段・活動指標) 施設の使用許可については平成18年度の指定管理者導入まで。センター管理運営に関する監督・監査については引き続き実施する。</p> <p>9-(2) どの水準まで向上する見込みなのか(成果指標) 指定管理者制度が導入されれば使用申請の受付と使用許可の双方を指定管理者が行えることになる。利用者にとって簡易な手続きで利用促進を提供することで稼働率の向上と使用料収入の増が期待できる。適切なセンター管理運営が確保される。</p> |
|--|--|--|

第2表 事務事業の自己評価

| | | | | | |
|-------|--------------------------|-----|------------|-------|----------|
| 部課係名 | 文化環境部 平和・男女共同参画課 男女共同参画班 | | | | |
| 評価責任者 | 米蔵博美 | | 担当者男女共同参画班 | | |
| 課番号 | 031405 | 係番号 | 02 | 電話番号 | 866-2500 |
| | | | | 作成年月日 | |

| | | | | | |
|------------|-----------------------------------|------|----|--|--|
| 事務事業コード | 2006-031405-02-07 | | | | |
| 事務事業名 | 沖縄県女性総合センターの管理運営に関する監督・監査及び施設使用許可 | | | | |
| 歳出事業コード(1) | 021011001 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(1) | 男女共同参画行政推進費 | | | | |
| 歳出事業コード(2) | 021011006 | 事業区分 | B1 | | |
| 歳出事業名(2) | 男女共同参画センター-事業費 | | | | |
| 歳出事業コード(3) | 021011017 | 事業区分 | C | | |
| 歳出事業名(3) | ているる図書情報室機能維持・強化事業 | | | | |

| | | | | |
|--------------|-------|--------|------|--|
| 分野別計画施策体系コード | 主コード | 999999 | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | | 政策目標 | |
| | | | 施策 | |
| | 再掲コード | | 計画名 | |
| | | 政策目標 | | |
| | | 施策 | | |

| | |
|---------|------------------|
| 事務事業の区分 | 1. 内部事務事業以外の事務事業 |
|---------|------------------|

| | | | | | | |
|------------------|--------------------|------------|------------|------------|--------|-----------|
| 活動指標名又は活動の内容(A) | 利用者の需要動向 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(A') | 各種事業への参加者数及び施設利用件数 | | | | | |
| 活動指標名又は活動の内容(B) | 施設の効果的な管理運営 | | | | | |
| 成果指標名又は成果の内容(B') | 施設の管理運営委託料 | | | | | |
| <指標の推移> | 単位 | H15年度 | H16年度 | H17年度 | H18年度 | 目標: H20年度 |
| 活動指標A | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標A' | 人数 | 121,955.00 | 133,034.00 | 123,177.00 | | 0.00 |
| 活動指標B | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| 成果指標B' | 千円 | 111,465.00 | 109,719.00 | 108,895.00 | | 0.00 |
| 投入資源 (単位:千円) | 予決算額C | 109,719 | 108,895 | 113,032 | 63,460 | |
| | 人工数D | 0.76 | 0.65 | 0.65 | 0.40 | |
| | 人件費E | 5,038.80 | 4,186 | 4,186 | 2,568 | |
| | 合計C+E=F | 114,757.80 | 113,081 | 117,218 | 66,028 | |

| | |
|------------|---|
| 1. 県民意識の把握 | |
| | (1) 県民満足度の度合い 判定 B (判定内容) B: 概ね満足している。 |
| 判定根拠 | 現在沖縄県女性総合センターにおける、センター事業(相談事業、情報提供事業、啓発学習事業、広報事業)及び貸し館業務は(財)おきなわ女性財団に一括して委託しており、各種事業への参加者数及び施設の利用者数は年間12万人を超えている。(平成17年度実績126,615人) |
| | (2) 県民ニーズの動向 判定 B (判定内容) B: 横ばい |
| 判定根拠 | 各種事業への参加者数及び施設の利用者数は、14年度121,955人、平成15年度133,034件、平成16年度は123,177人、平成17年度は126,615人で年度によって上限はあるが、横ばいである。 |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|---|------|
| 2. サービス水準の他県との比較 | | 判定 B |
| (判定内容) B. 他県並みである。 | | |
| 判定根拠 | 他都道府県においても類似県有施設をほぼ同様の形態で管理・運営している。 (三重県については平成16年度10月より指定管理者制度へ移行。) | |
| 3. 役割分担（守備範囲） | | 判定 C |
| (1) 官民の役割分担 | | |
| (判定内容) C. 現在、官が実施しているが、民営化が可能である。 | | |
| 判定根拠 | 地方自治法244条の2第3項（普通地方公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、法人その他の団体であつて当該普通地方公共団体が指定するもの（以下本条及び第二百四十四条の四において「指定管理者」という。）に、当該公の施設の管理を行わせることができる。） | |
| (2) 市町村、国との役割分担 | | |
| (判定内容) C. 現在、県が実施しているが、市町村への権限移譲が可能である。 | | |
| 判定根拠 | 地方自治法244条の2第3項（普通地方公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、法人その他の団体であつて当該普通地方公共団体が指定するもの（以下本条及び第二百四十四条の四において「指定管理者」という。）に、当該公の施設の管理を行わせることができる。） | |
| 4. 民間委託の可能性 | | 判定 C |
| (判定内容) C. 現在、県が直接実施しているが、民間委託（一部委託含む）が可能である。 | | |
| 判定根拠 | 地方自治法244条の2第3項（普通地方公共団体は、公の施設の設置の目的を効果的に達成するため必要があると認めるときは、条例の定めるところにより、法人その他の団体であつて当該普通地方公共団体が指定するもの（以下本条及び第二百四十四条の四において「指定管理者」という。）に、当該公の施設の管理を行わせることができる。） | |
| 5. 事務事業の選択 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象や目標等に類似する事務事業はない。 | | |
| 判定根拠 | 沖縄県における女性の地位向上及び男女共同参画推進のための活動拠点として設置されており、他に類似する施設はない。 | |
| 6. 対象の妥当性 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 対象は適当で、目標達成のため最も効果的である。 | | |
| 判定根拠 | 目的達成のためには、より多くの県民に利用してもらうことが効果的である。 | |
| 7. 貢献度（手段と成果の相関関係） | | 判定 B |
| 活動指標の達成度が成果指標の達成度に | | |
| (判定内容) B. 大きな影響を与える。 | | |
| 判定根拠 | 沖縄県における男女共同参画推進のための拠点として重要な役割を果たしている。 | |

第2表 事務事業の自己評価（つづき）

| | | |
|--|---|----------|
| 8. 対費用効果 | | 判定 A 2 |
| (1) 費用（投入資源＝インプット）と成果（アウトカム）の相関関係をみると (判定内容) A 2. 費用は低下で成果は横ばい。 | | |
| 判定根拠 | 事業費については年々削減されてきているが、各種事業への参加者数及び施設の利用者数は、14年度121,955人、平成15年度133,034件、平成16年度は123,177人、平成17年度は126,615人で、年度によって増減はあるが、横ばいである。 | |
| (2) 費用と結果（活動指標＝アウトプット）の相関関係をみると (判定内容) A 2. 費用は低下で結果は横ばい。 | | |
| 判定根拠 | 事業費については年々削減されてきているが、各種事業への参加者数及び施設の利用者数は、14年度121,955人、平成15年度133,034件、平成16年度は123,177人、平成17年度は126,615人で、年度によって増減はあるが、横ばいである。 | |

| | | |
|------------------|------------------|--------|
| 9. 県の負担割合 | | 判定 A |
| (判定内容) A. 妥当である。 | | |
| 判定根拠 | 県が設置した公の施設であるため。 | |

| | | |
|-------------------------------|------------------------|--------|
| 10. O A化の可能性 | | 判定 D |
| (判定内容) D. O A化済（一部O A化含む）である。 | | |
| 判定根拠 | 施設の予約申請に対し、電算登録を行っている。 | |

| | | | | |
|----------|----------------|----------|--------|---|
| 11. 判定結果 | | | | |
| 必要性 | 1. 県民意識 | (1) 満足度 | B | |
| | | (2) ニーズ | B | |
| | 2. サービス水準の他県比較 | | | B |
| | | 3. 役割分担 | (1) 官民 | C |
| | | (2) 県市町村 | C | |
| 有効性 | 4. 民間委託の可能性 | C | | |
| | 5. 事務事業の選択 | A | | |
| 効率性 | 6. 対象の妥当性 | A | | |
| | 7. 貢献度 | B | | |
| 効率性 | 8. 対費用効果 | (1) 対成果 | A 2 | |
| | | (2) 対結果 | A 2 | |
| | 9. 県の負担割合 | A | | |
| | 10. O A化の可能性 | D | | |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 合計 | A | B | C | D | E |
| | 5 | 4 | 3 | 1 | |

| | | |
|--------------------------------------|--|-----------------------|
| 12. 所管課の総合評価 | | 総合評価 |
| | | 評価区分 B 具体的方向性 1 |
| (評価区分) : B. 現状維持 | | |
| (具体的方向性) : 1. 投入資源は現状並とするが、成果を向上させる。 | | |
| 判定根拠 | 地方自治法244条の2第3項の改正を受け、女性総合センターの管理運営に関して平成18年度から指定管理者制度を導入する。これにより施設の使用許可については指定管理者の業務とすることが可能となり、手続きの簡素化と利便性の向上が図られ、施設利用率及び利用料収入の向上につながる。 各種事業の実施等適正な女性総合センターの管理運営を確保するため、引き続き県の監査・監督を実施する必要がある。 | |